

施策マネジメントシート（令和 4 年度目標達成度評価）

第2次 総合計画 体系	政策 No.	3	政策名	歴史、文化と歩いていく自然豊かなまち
	施策 No.	2	施策名	歴史・文化の継承と文化財の保存
施策主管課	文化課		施策関係課名	生涯学習課

1 施策の目的（①対象③意図）と指標（②対象指標④成果指標）等の推移

①対象 (この施策は、誰、何を対象としているのか)		③意図 (この施策によって対象をどう変えるのか)						
A.市民 B.市内の文化財		A.小城の歴史、文化・伝統芸能を知る、学ぶ B.適切に保存・継承する						
④成果指標 (意図の達成度を表す指標)		単位	数値区分	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	成果指標の達成状況及び要因
1	小城市の歴史、文化・芸術に関心を持っている市民の割合	%	目標値	46.0	48.0	49.0	50.0	1) 概ね達成。年代別に見ると、20代後半から40代の子育て世代で、「関心がある」と回答した割合が10%未満と最も低くなっていることから、目標達成に向けては、世代を超えて小城市の歴史、文化・伝統芸能に興味を持ってもらう機会の創出と情報発信が課題となる。 2) 達成。前年度（令和3年度）と比較すると、1.2ポイント増と実績値はコロナ禍以前の数値に持ち直している。令和4年度はコロナ禍による行動制限が緩和され、事業参加の機会が増えたことが要因として考えられる。 3) 達成。文化財保護審議会に諮り、新たに2件を小城市重要文化財に指定した。
			実績値	43.2				
			達成率	93.9%				
2	歴史・文化活動に取り組んでいる市民の割合	%	目標値	12.0	13.5	14.5	15.5	
			実績値	13.3				
			達成率	110.8%				
3	文化財の指定件数	件	目標値	90	91	92	93	
			実績値	91				
			達成率	101.1%				
4			目標値					
			実績値					
			達成率					
5			目標値					
			実績値					
			達成率					

2 施策（基本事業）の振り返り

基本事業	(施策の目標達成に向けて、どのように取り組んだか。)
歴史、文化・伝統芸能の継承と振興	<ul style="list-style-type: none"> 市民に郷土の歴史や文化に触れる機会を作るため、展示施設を活用し、「本野克彦コレクション展」、「佐賀大学交流事業特別展」を開催するなど小林梧竹記念館、歴史資料館の事業の充実を図った。 伝統芸能を保存し、後世に継承できるよう、活動団体に対する支援（補助金交付等）を行った。
文化財の適正な保護	<ul style="list-style-type: none"> 未指定文化財の調査を行い、指定候補の中から2件を小城市重要文化財の指定につなげるなど、文化財の適正保護に向けた活動を行った。また、光栄菊酒造を22世紀に残す佐賀県遺産の認定につなげた。 屋根のない博物館構想に基づき、説明板2件の設置や星巖寺楼門修理補助を行うなど市内文化財の整備を行った。 文化財保護意識を高めるために展示会やイベントなどを通して情報発信を行った。

3 施策の課題（基本計画で掲げた施策の「現況と課題」、成果指標の達成状況を踏まえて、次年度以降に向けた施策の課題）

<ul style="list-style-type: none"> 歴史・文化・伝統芸能の更なる振興に向けて、市民が郷土の歴史や文化に触れる機会の創出が求められている。 高齢化に伴う団体構成員の減少により、伝統芸能の活動が縮小傾向にあり、後継者育成が求められている。 市内には、千葉城や寺浦廃寺など調査が必要な遺跡のほか、散逸・滅失の恐れのある文化財が数多く存在しており、保存・整備・活用を進めていく必要がある。
--

4 今後の取り組み（課題解決に向けた今後の取り組みの方向性・内容等）

<ul style="list-style-type: none"> 小林梧竹記念館、歴史資料館など展示施設を活用し、資料を紹介しながら、歴史・文化に触れる機会を作る。 小城市の伝統芸能が後世に継承できるよう、活動内容を市報・市HPを始めとした媒体で紹介するほか、活動団体に対して補助金を交付する等、担い手確保に向けた取り組みを支援する。 指定文化財の適正な保存に向け、未指定文化財の調査を進める。また、文化財保護意識を高めるため、情報発信を行うほか、地域での出前講座等を実施する。
--